

2007年5月1日

郵政民営化委員会委員

田中直毅様 (21世紀政策研究所 理事長)

増田寛也様 (財団法人 東京市政調査会、元岩手県知事)

富山和彦様 (株式会社 産業再生機構企画調整室 清算人)

辻山栄子様 (早稲田大学商学部教授)

野村修也様 (中央大学法科大学院教授)

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

郵政民営化の問題は、多くの問題を含む事案であり、先生方のご努力に国民の多くが期待を寄せているところであります。

本日の新聞紙上には、東京、大阪、名古屋の中央郵便局局舎について、高層化による再開発を図る方針との記事が見られました。しかしながら各地の中央郵便局局舎は、わが国の建築近代化の歴史のなかで極めて重要な位置を占める文化的遺産であり、それらの建物が都市景観のなかで占めている役割もまた大きいものであります。

われわれ建築・都市専門家は、これまで日本建築学会、日本建築家協会および DOCOMOMO Japan を通じて郵政建築の重要性を訴える要望書を提出して参りました。これに関しては、同封の文書をご覧くださいますようお願いいたします。

又 DOCOMOMO Japan では、2006年7月19日に日本建築学会、日本建築家協会の協力を得て「東京中央郵便局の価値」と題するシンポジウムを行い、この建築の価値と存続することの意義について考察し、広く社会にも伝え共感を得ました。

今回の計画がこれらの貴重な文化遺産を消去し、都市景観を破壊するものであるならば、それは都市と建築に対する暴挙となりましょう。都市景観として長く親しまれた、歴史的な建築を失うようであれば、それは今後の日本の都市が経済第一主義の非文化的で索漠たるものとなることを意味するでありましょう。

われわれは高層化を視野に入れるとしても、近代化の歴史を示す現局舎建築と共存する道を探るべきであると主張いたします。これに関しては専門家の立場から、提案・計画立案等でご協力する覚悟であります。

先生におかれては、郵政民営化に関して高いご見識をもってご議論されることと拝察いたします。何とぞわれわれの主張を勘案した将来像をご呈示くださることを希望する次第であります

敬具

鈴木博之
東京大学大学院教授 (建築史)
DOCOMOMO Japan 代表

